

道徳だより



穴水町立向洋小学校
第3号
H30. 6. 26

ぜひお越しください

6月28日（木），学校公開日に全学級が道徳の授業を公開します。ぜひご参観ください。

1年 (5限目)	教材名「ぼくの あさがお」 ねらい：身近な自然に親しみ、優しい心で動植物の世話をしようとする心情を育てます。
<p>〈内容・お願い等〉主人公の「ぼく」があさがおの生長を楽しみに世話をする様子を描いたお話です。「ぼく」が水やりを忘れてしまったことで、あさがおがしおれてしまいます。何回もあやまりながら水をやったことで、あさがおは元気を取りもどします。あさがおの種が芽を出したときの様子やうれしさ、毎日世話をする苦労などを思い出しながら、教材の「ぼく」の気持ちを共感的に理解できるようにします。</p> <p>授業の最後に保護者のみなさんから、お子様に「愛情を持って動植物に接する大切さ」についてお話をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>	
2・3年 (2限目)	教材名「鳴き砂の浜を守る」 ねらい：国や郷土の良さに気づき、大切にしようとする心情を育てます。
<p>〈内容・お願い等〉1997年に輪島市の琴ヶ浜で起きた実話をもとに授業を行います。当時、タンカーの座礁事故で流れ出た重油が琴ヶ浜にまで届き、浜辺が焦げ茶色に染まってしまいました。当時中学校の先生をしていた板屋さんを中心に、住民総出で流れ着いた重油の回収作業を行います。なかなか思うようにきれいにはなりません。</p> <p>浜辺の清掃作業に関わった人達の気持ちを考えながら、「国や郷土を大切にしようとする心情」を育てられるようにします。ぜひお家でも、穴水町の良さについて話し合ってみてください。</p>	
4・5年・たんぽぽ (3限目)	教材名「『もっこ』をせおって」 ねらい：人のために働くことの心地よさに気づき、誰に対しても心をこめて進んで働こうとする態度を養います。
<p>〈内容・お願い等〉東日本大震災で実際に起きた出来事のお話です。大地震の1年前に、岩手県宮古市に引っ越してきた凜奈さんと優奈さん。近所の人たちの心の温かさに触れながら新しい生活をしようとしていた矢先の大地震。自宅は津波に流され、高台にあるおじいちゃんの家にも身を寄せられるようになりました。おじいさんは、足腰が悪いお年寄りのためにもっこを背負って食料を配り始めました。その様子を見て、二人はさまざまな人のために自分たちができることを見つけ、働くことにやりがいを感じるお話です。「みんなの役に立つ喜び」を知れば知るほど子供たちは自主的に活動を始めます。</p> <p>ぜひ、お家でお子さんが持つ勤労観をもとに、話し合ってみてください。</p>	
6年 (3限目)	教材名「命の重さはみな同じ」 ねらい：人間や動物の生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し、力強く生きぬこうとする態度を育てます。
<p>〈内容・お願い等〉動物の保護施設「ハッピーハウス」に一匹の子犬が捨てられていました。子犬は大けがをしていて獣医は安楽死をすすめます。しかし、代表者の甲斐さんは「命をつないでください」と必死に訴えます。大手術の末、命を取りとめた子犬。その力強く生きる姿に多くの人が心を動かされます。どのような生命に対しても誠実に向き合い、生きることの尊さを知り、生命に対する畏敬の念を育てる教材です。</p> <p>おうちで、お子さんが誕生したときの様子や喜びについて家族みんなで話し合ってくださいと思います。</p>	

